

再稼働反対 原発ゼロへの確かな力.. 空前の集會・デモの盛り上がり

16日東京 代々木公園 空前の17万人

国会事故調査委員会は「東電は津波の影響だけを問題にしているが、地震そのものによつて影響を受けたのではないか」と指摘しました。その検証はこれからの大きな課題です。それにもかかわらず、野田政権が大飯原発の再稼働を決めたことが、多くの人の怒りをかき、毎週金曜日の夜に首相官邸前で大規模なデモが繰り返され、6月29日には20万人規模となりました。

また、作家の大江健三郎さんらが呼び掛けた東京代々木公園での「7月16日/さよなら原発集会」には主催者の想定を大きく超えた17万人が集まりました。

これらのデモに参加している慶応大教授小熊英二さんは「原発事故があつて見えてきたのが、政界・官界・財界の複合体だった。我々を無視して決定し、我々の安全を守る気もなく、内輪で既得権を得ている連中だ、と映っているでしょう。デモの『再稼働反対』という声には『日本のあり方』全体への抗議が込められていると思います」と評しています。



首相官邸前デモはこれからも毎週続きます。関西でも毎週金曜日夜6時から関電本社前(大阪市北区中の島)で集会デモが行われます。あなたも参加しませんか?

関電は大飯原発3号機がフル稼働すると、火力8基を停止しました。「電力不足はウソか」と怒りの声が沸き起こっています。そこにあるのは、電力需要と供給の本当の数字を明らかにせずに、原発の危険性から目をそむけ、経済的利益のみを追求する姿です。

日本共産党

党・兵庫1区(東灘・灘・中央区)国政対策委員長

筒井 哲二郎

【経歴】1971年魚崎・甲南本通の和菓子店に生まれる/魚崎小・魚崎中・赤塚山森校/舞臺司に勤めながら1996年大阪市立大卒、1993~1999年日本共産党・同区東灘支部支部長(1998年~2007年「しんぶん赤旗」出版所長/現任 党地区常任委員、東灘区住吉南町在住



「神綱に竹く仲向のみなさん
★ 暮らし、経済破産する消費税増税反対!
★ 再稼働に反対し、原発ゼロの日本を!
★ 日本に半導基地はいらない。安売条約廃棄しよう!
★ 神綱の模倣許さず、
安心、安全な取場づくりを、
共に頑張りましょう!

創立の周年迎えた日本共産党

日本共産党は、今年7月15日に創立90周年を迎えました。その歴史は、国民の利益、平和と民主主義、そして日本社会の進歩・発展をめざして、その障害となるものにとたいしては、いかに強力で巨大な相手であろうとも恐れずに、立ち向かってきた歴史であります。今、国の内外で閉塞感が強まり、国のあり方が問われています。私たちは、そういう時代の根っこに「アメリカいいなり」「財界いいなり」から抜け出せない政治があると考えています。政権交代した民主党もその点では変わりがなく、結局、国民の期待には応えられませんでした。「アメリカいいなり・財界いいなり」の政治を変えて、「国民が主人公」の政治を目指して、これからも神綱で働くすべてのみなさんとともに頑張り抜く決意です。

世界一危険なオスプレイ日本配備反対!

プロペラの向きを変えてヘリコプターのようにも固定翼機のようにも飛行する、米海兵隊の垂直離陸機MV22オスプレイ。事故が相次ぐ欠陥機と批判されているのに、米軍は日米安保条約を盾に配備を狙い、沖縄をはじめ日本全国で低空飛行訓練を計画。住民や自治体が不安にかられ、沖縄をはじめ全国の自治体が強い抗議の声をあげています。野田首相は「配備は米政府の方針であり、日本からどうしろこうしろという話ではない」と述べ、見直しや延期を要請できないとの認識を示しました。住民の不安に立ち向かうとせず、アメリカの方針を自治体に押し付けようとしています。安保があるから無条件に配備するというのがあれば、オスプレイ配備中止し安保を見直す契機にしようではありませんか。